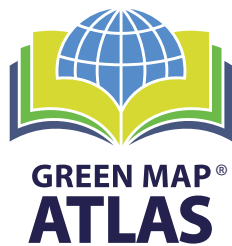




KYOTO

Green Mapmaking in Japan's Cultural Capital



グリーンマップ・システムは、世界各地で制作される自然・文化環境のマップを通して、地域の持続可能性や市民活動を応援する非営利団体です。

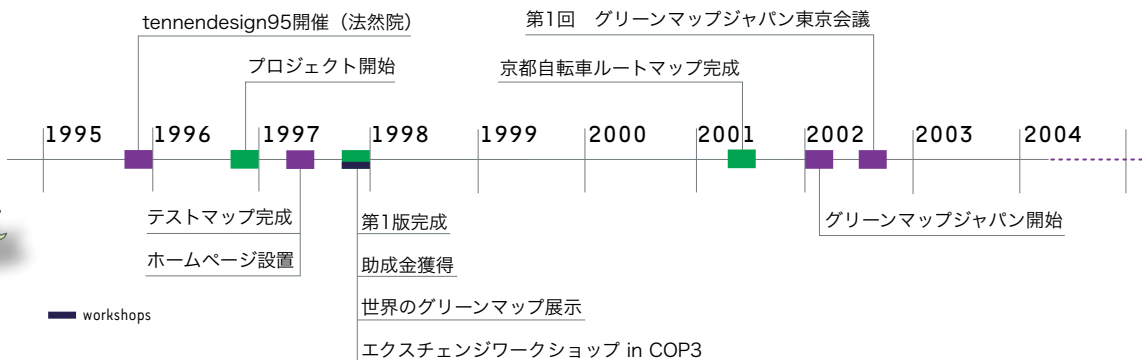


はじめに

Kyoto · Japan
 Kyoto Green Map
www.joho-kyoto.or.jp/~tennen



京都グリーンマップ詳細 (1997年)



日本人の心のふるさと京都は人口146万人、10世紀もの間、日本の首都として栄えた都市であり、世界遺産をはじめとする神社仏閣、歴史的建造物が多い。日本文化の凝縮されているこの都市では日本人の自然に対する哲学や接し方が都市の構造、神社仏閣とができる。

私たち天然デザインフォーラムは、1997年京都で開催された国連の「地球温暖化防止京都会議」(COP3)の折、京都グリーンマップを制作した。この会議にやってくる国内外の環境NPO、NGO参加者に環境の視点から京都を見つめ直したグリーンマップを配布し、古都京都をこれからの時代にふさわしい環境都市に変えていくきっかけになればと考えた。世界で8番目、アジアで最初に制作されたこのマップは、COP3会期中大きな反響を呼び、その後の日本でのグリーンマップ活動のきっかけとなった。

京都グリーンマップは非西洋で制作された最初のマップであり、私達はアジアや日本の環境的な知恵を西洋諸国に伝え、またアイデアを共有したいと考え

た。住民に環境情報を伝えるだけでなく、京都のエコツーリズムにも寄与できるように、観光スポットとなる主な施設や神社仏閣も掲載している。

地図データ

- ・ 使用言語: 日本語、英語
- ・ 版数: 2
- ・ 地図形態: 印刷物、ウェブマップ
- ・ 収録サイト数: 486
- ・ グローバルアイコン使用数: 65
- ・ ローカルアイコン使用数: 16



16個の京都ローカルアイコンのうちの9個

マップ制作

Kyoto · Japan
Kyoto Green Map
www.joho-kyoto.or.jp/~tennen



3,000 maps printed and distributed

私たちが、グリーンマップのアイデアを知ったのは1995年、京都法然院で開催した天然デザインフォーラム主催のミニデザイン国際会議である。デザイナーの環境問題への貢献を考える3日間のこの会議のワークショップの一つを担当し、グリーンマップを提唱したのがウェンディ・ブラウワーであった。私たちは法然院の周りを歩いていくつかのアイコンをデザインしてみた。その時デザインした12個のアイコンはグリーンマップアイコンの第1バージョンに採用された。

1年後、天然デザインフォーラムは「気候フォーラム京都ネット」(ホストシティ地元京都の環境NGOがCOP3を成功させるために組織したネットワーク)のメンバーになると共に、グリーンマップを2カ国語で作ることを宣言。97年、京都のアースデイイベントではテストマップ1000部(A4裏表1色)を刷り、パレードの途中、参加者や道行く人に配って協力を呼びかけた。オリエンテーションは事あるごとに行い、市内を5カ所に分けた調査票や調査用ポストカードを作り、情報収集をしニューズレターで協力者に知らせた。少なくとも月一回はミーティングを行ない、情報の集まり具合いや必要な議論をした。9月末で一応調査は終了し、調査情報をデータベースに入れる。



(左から)
京都グリーンマップ表紙(1997年)。京都自転車ルートマップ表紙(2001年)-お勧めルートを掲載した裏面の一部。調べたサイトを下絵に配置。

数週間後にCOP3を控える中、10人のデザイナーと2人の翻訳者の協力によって地図は11月に完成した。また、COP3会期中にはマップを使った「京都の環境破壊を見学するバスツアー」を共同企画、「市民の広場」にて世界のグリーンマップの展示、国内外の環境NGOとエクスチェンジ・ワークショップなども行った。COP3会議場、NGOフォーラム会場、ホテルにて京都グリーンマップを配布。その後、ウェブサイト<<http://www.joho-kyoto.or.jp/~tennen>>を制作し、私たちのユニークな環境プロジェクトを紹介した。

京都グリーンマップは、「山紫水明」(自然が豊かで空気のきれいな山は、陽に映って紫にかすんで見え、澄んだ水ははっきり見えるという美しい景色の形容)にのっとり淡い紫を基調とした。デザインコンセプトは京都の古地図も参考にし、京都の特異な地形が目で見えるデザインにした。表面は京都市全体、裏面はCOP3の会場付近および観光などでも利用の多いと考えられる3地域(嵯峨野・嵐山エリア、京都中心部、左京区主要部)を選んで収録した。また、裏表共通のグリッドナンバーを設定し、サイトを検索しやすくした。

テクニカルデータ

ソフトウェア:

FileMaker Pro
Adobe Illustrator

ハードウェア:

Research postcard
Data collection forms
Newsletters
Cameras
Display tools

紙質:

Tree-free paper with soy-based ink

地図形態とサイズ:

Full color folding
・ Citywide map: A2 (59.4 X 42 cm
23.4 X 16.5 in)
・ Bicycle route map: A3 (42 X 29.7 cm
16.5 X 11.7 in)

チームワーク

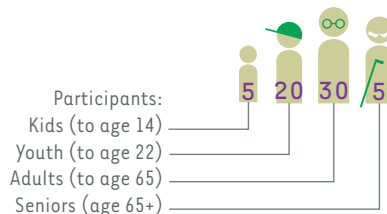
Kyoto · Japan
Kyoto Green Map
www.joho-kyoto.or.jp/~tennen

京都グリーンマップはデザイナー10人と調査協力者60名(主婦、子供、学生、一般市民、行政の方など)の力で実現した。また京都は以前からNPOや草の根運動が盛んな地域である。22のグループを有する「京都・水と緑をまもる連絡会」を始め、「環境市民」、原発反対運動を行う「グリーン・アクション」、「古材バンクの会」、「法然院・森の教室」、「京都ほ乳類研究会」、「京都道路問題住民研究会」、「使い捨て時代を考える会」、「京都消費者団体連絡協議会」など、私たちの地図はこれら多くのグループから専門的な情報を頂いている。デザインチームは95年の法然院会議から共に歩んできたデザイナーと京都マップの制作過程で新たに知り合ったプロフェッショナルデザイナーやデザイン学生などである。

京都マップにはいくつかのローカルアイコンが付け足されている。西洋庭園とは違う思想で作られている優れた「日本庭園」、自然を愛でる文化的な場所「桜」「ムササビ」、商業関連では、「手工芸店」、「京野菜販売店」、神社仏閣での「フリーマーケット」、「東洋系の健康サイト」などがそれにあたる。私たちの提案や京都ローカルアイコンは、その後アイコン第2ヴァージ



Partners, advisors and Board members: 10



ョンの改良の際、再びいくつかが採用されたのは嬉しいことである。

また、天然デザインフォーラムは、COP3の年から京都市のエコ交通問題に力を入れており、2001年、市の環境政策課「京のアジェンダ21フォーラム」のエコ交通、自転車チームの活動をディレクションした。その成果の一部として、同年、ポケットサイズの「京都自転車ルートマップ--左京区主要部」を3000部制作した。この地図は、最初の京都グリーンマップを基に4つの自転車観光お勧めルートを始め、レンタサイクル店、自転車の利用できるホテル、修理スポット、自転車マナー、四季折々の京都の祭り、まさかの時の救急病院などを紹介している。

COP3会期中の世界の >>
グリーンマップ展示とエクス
チェンジ・ワークショップ。



<< ヴォランティアや学生と
調査 ツアー。



京都グリーンマップの主要メンバー(左から)北條崇、右衛門佐美佐子(リーダー)、竹林善孝、田中裕子、山田章博



1995年に主催した天然デザインフォーラム法然院会議の様々。
グリーンマップアイコンをデザインしてみる。

制作費

Kyoto · Japan

Kyoto Green Map

www.joho-kyoto.or.jp/~tennen

国連主催のCOP3のホストシティとして、「気候フォーラム京都ネット」に環境庁の傘下団体「地球環境基金」からグロスで数百万円の助成金が出たが、それを多くの環境グループで分け合ったため、京都グリーンマップには11万円ほどの資金しか出なかった。非木材紙は平和紙業という紙会社に提供していただき、大豆インクを使用した印刷費もだいぶ安くしていただいたが、それでも印刷費はカバーできなかった。そこでコアメンバーと相談し、タダで配るべきCOP3参加者やNPO、メディア関係者は別にして、その他はマップを粗末に扱われたくないという理由もあり、1部500円で販売し印刷費に充当することを決めた。GMSにも多数寄付し、新規登録のマップメーカーにも参考として渡った。後に制作した京都自転車ルートマップも日本のマップ制作者に提供されている。



Green Map Japan website

Approximately **47,160** website visitors per year

(Tennen Website: approximately 480 visitors per year)



(上から)天然デザインフォーラムウェブサイト。 自転車マップを制作した折、同時に京都に合う駐輪具のデザインなども提案し、展示した。



京都の第1版、第2版に使用されたアイコン

これらのアイコンは全グリーンマップに共通に使われている



エコノミックデータ

制作主体: Design group

資金源:

Grants, in-kind, sponsorship, and membership fees

主な支援団体:

Climate Network Kyoto
The Kyoto Water and Greenery Protection Network, a coalition of 22 groups

専任スタッフ: 0

頒価: 500 yen to the public, free for network members

派生プロジェクト: bike map

評価

Kyoto · Japan
Kyoto Green Map
www.joho-kyoto.or.jp/~tennen



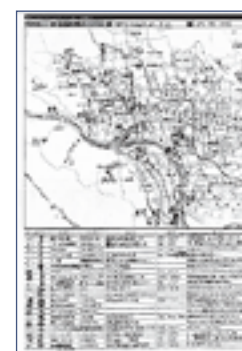
マップは多くのメディアで紹介された。(左から)INAX広報誌『Co・Co・Chi』(02年11月)、『毎日新聞』(97年4月17日)、『Co・Co・Chi』、地図情報誌、『ラパン』(02年3月)、中学美術教科書に採用される。『ピクトグラムとアイコン・グラフィック』(02年)

日本で初めて制作したため、制作方法は試行錯誤の連続であったが、私達の地図は成功だったと確信している。1997年の4月のアースデイに配ったテストマップ以降、メディアの京都グリーンマップへの関心は非常に高く、『朝日新聞』、『読売新聞』、『毎日新聞』、『京都新聞』、『産経新聞』、『日本経済新聞』、『デイリー読売』(英字新聞)、『ナショナル・ジオグラフィック』誌日本版、光村図書『中学美術教科書』、INAX/PR誌『Co・Co・Chi』、地球環境財団機関誌『アーシアン』、『日経ECO21』、地図情報誌『ラパン』、『GIS NEXT』誌、ピエ・ブックス単行本『ピクトグラム&アイコングラフィックス』、ラジオなど多数のメディアで紹介された。

私達の挑戦は、地図をメディア(媒介)にして現実を変えていく試みだ。京都マップを制作して、多くの環境グループを知ることとなり、後にいくつかのグループと新しいプロジェクトを起こし協働することとなった。自転車マップはその一つである。また、京都グリーンマップは私たちの街の環境の基本的なデータベースともなり、情報は市民に利用されている。

京都はその昔中国の風水の思想に基づいて作られ、いわば土地の気(水、山、風などの自然環境)を囚って建造され、三方を山に囲まれ、日本の政令都市には珍しく身近な自然が豊かなところでもある。京都の伝統的な建築「町屋」は、暑い京都の夏を過ごしやすくする工夫に満ちている。町屋の障子、襖、畳といった構成物はモジュール化され、どの町屋にもしつらえることができ、坪庭も特異な役割を果たしている。「京野菜」アイコンは、伝統的に京都で栽培されてきた「京野菜」を示しており、生産組合が認定制度を設けるほど近年その需要は高まっている。

自分達の街にある文化的資産を環境の視点から問い直し、再編成していくことも私達の課題であると考えている。



(上から)調査用シートと葉書調査カード。1997年制作したテストマップの裏面にはCOP3と地球温暖化についての情報を入れた。

むすび

Kyoto · Japan
Kyoto Green Map
www.joho-kyoto.or.jp/~tennen

マップ調査の過程で私たちは改めて京都の自然の豊かさに気づき、そこに日頃忘れかけている自然と共生するという日本文化の特性をも多く見いだした。豆腐、和菓子、酒作りなどに利用される湧き水、バッファーである里山や森を有する名だたる神社仏閣には様々な動植物が生息しており、京都は身近な自然が豊かなところである。地元の素材を使い、壊れても直して使い続け、廃棄物をなるべく出さず再利用するという態度は「ケチ」ではなく、昔から「しまつ」という言葉で京都人には生活の美徳とされてきた。80-90年代のバブル経済の影響によって古都京都の自然破壊が進んだが、これに反対する住民運動も盛んだ。これらの市民パワーを環境行政に実質的に活かしていく方策を、私たちは目下模索している。

グリーンマップは人々の意識を高め、市民で情報を共有し、主張するための媒体だ。文明の趨勢によりその土地に根ざした古来からの知恵は失われてしまった所もある。しかし持続可能な社会の実現は、先端の科学技術を使うより、このような文化的知恵を見直すことも「早道」になるのかもしれない。この事を京都のマップは気付かせてくれた。そして何より重要なのは現実を実質的に変えていくということである。

“日本では京都からどすえ!--グリーンマップが願う、言葉の壁を越えた世界の人と人の対話。”

—(財)地球環境財団『アーシアン』誌

“エコフレンドリーな京都の地図が、完成！京都の匂い付けをしたユニークなオリジナルアイコンもデザイン。”

—『デイリー読売』(英字新聞)

“グリーンマップ片手にエコの目で京都を楽しんでみよう。”

—INAX 広報誌『Co・Co・Chi』

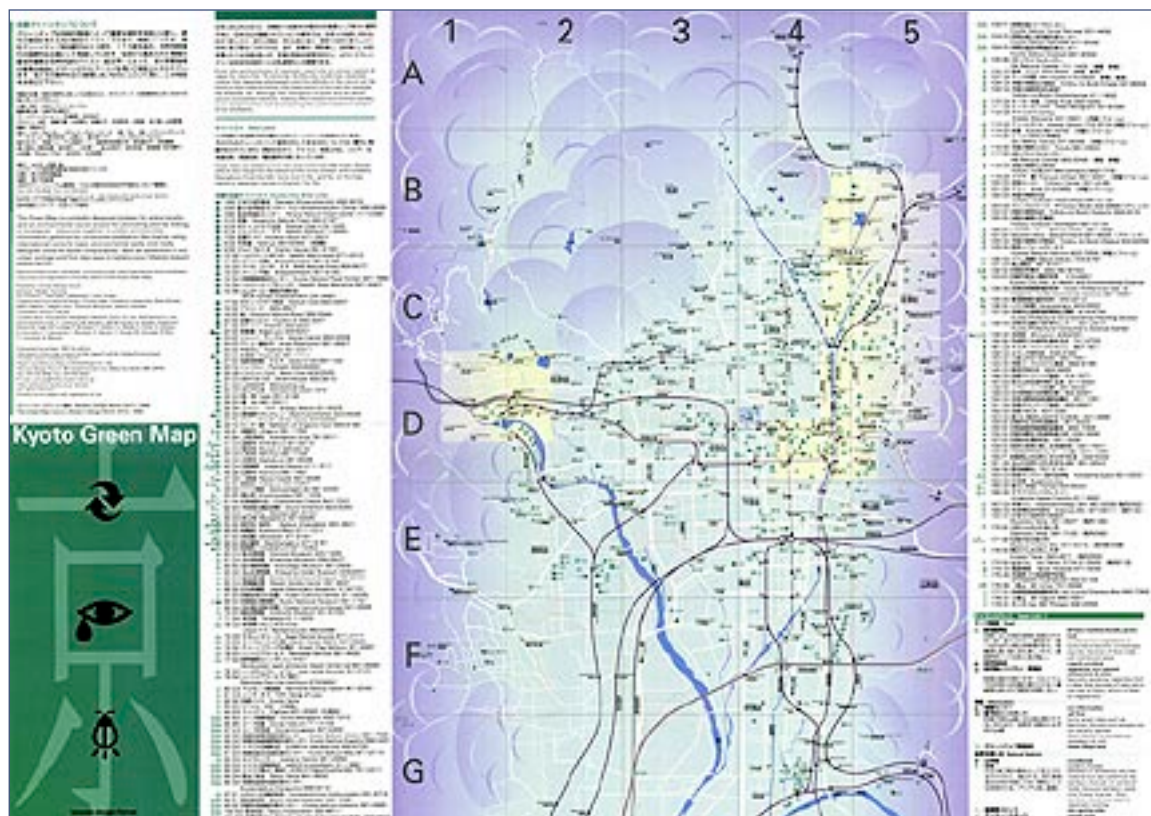
2002年2月、私達は国内のグリーンマップ制作をサポートするネットワーク--グリーンマップ・ジャパンの設立を主導し、日本のマップ制作者の会議を開催した。日本にはエコ交通、まちづくり、町並み保全など多種多様なテーマのグリーンマップが進行中である。また、グリーンマップ・ジャパンは、2003年、子供達の環境教育、コンピューター教育、コミュニティ教育にも寄与できる教育キットの開発をした。



(上、左、右)自然素材のほうきやたわしを売っている三条通の店。糺の森と呼ばれる世界遺産の下鴨神社の森は京都固有の植生。梨の木神社の湧き水「染井の水」は美味しいお茶には必須。



(左から) 乱開発で破壊された歴史的な山、一乗山。祇園新町界限には、疎水に沿ってお茶屋やレストランが並ぶ。



「山葉水明」をヒントにデザインされた京都グリーンマップ

クレジット

京都ストーリー監修：
右衛門佐(よもさ) 美佐子
天然デザインフォーラム
〒606-8225
京都市左京区田中門前町90 ガリア書房内
tel: 075-702-6548

Map images of Kyoto Green Map & other photos:
© Tennen Design Forum (Misako Yomosa, Takashi Hojo) Tennen Design Forum is a designers' non-profit organization contributing to environmental issues.



<< 錦市場の「かね松」-昔から京都で栽培される「京の伝統野菜」は近年人気が高く専門ショップもある。

マップの申し込みは?

email: m-yomosa@smail.plala.or.jp
or visit the online store at
www.greenatlas.org

www.greenmap.org, グリーンマップ・システムのホームページ: 世界中の全てのグリーンマップ・プロジェクト、グリーンマップ・アイコンポスター、ユースマップ制作ツールなどがいくつかの言語でご覧になれ、リンクしており、持続可能なこの活動への参加のお誘いも掲載しております。



© Green Map® System, Inc. 2004
PO Box 249, New York, NY 10002 USA
info@greenmap.org